「日々の理科」（第 1525 号） 2018（H30）,-9,11

「黒曜石の探究（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

黒曜石・・・何ともロマンをかきたてる名称の石だ。黒曜岩という岩石として扱うほうが正しいのだが、私はやはり「黒曜石」という名称が好きだ。私と黒曜石の出会いは、今から約 40 年前の、中学１年生の時の、「霧ヶ峰林間学校」の時だった。

当時は今のような立派なホテルは少なく、私たちが団体で泊まったのは、粗末なヒュッテ（山小屋）だった。当時の地理の先生（斉藤先生）が一人一枚の地形図（五万図）を配布し、このあたりの地質について非常に詳しく話してくれた。その中で、現地では黒曜石や鉄平石が拾えると教えてくれた。実際に現地に行ってみると、鉄平石のほうは宿舎周辺にいくらでもあったが、黒曜石のほうはなかなか見つからなかった。しかし、毎日のように歩き回って、登山道の脇でいつくか拾えたのを、今でも鮮明に覚えている。

黒曜石といえば、長野県の和田峠が一番有名だ。上図は現在の和田峠付近の地形図（田中加筆）である。和田峠は、今から 400 年以上前に造営された、江戸と京都を結ぶ「中山道」の難所の一つだった。今でも当時の道が残っていて、その周辺で黒曜石が見られる。以前は図の「旧売店」で大きな黒曜石を売っていて、その周辺で黒曜石やザクロ石を拾えたのだ。

写真は、長野県の和田峠産の黒曜石だ。火山岩の一種である黒曜石は、流紋岩質のマグマが水中などで噴出し、急激に冷却されてできる。いわば天然のガラスと言える。黒曜石は、白滝（北海道）、箱根、神津島、伊万里（佐賀）などからも産出する。しかし、和田峠産のものは透明度が高く、最も美しい。石器時代から採掘されて、さまざまな道具に加工されていた。また、各地に搬送されていたというから驚きである。

現在では産出量そのものだけでなく、さまざまな規制で、事実上採集は不可能に近い。上写真の標本は、現在の和田峠にある蕎麦屋さん（農の駅）の売店で購入したものだ。和田峠産のものは非常に貴重品で、思い切って全部買っておけばよかったと後悔している。

この写真も和田峠産のものだ。小粒だが、紛れもなく黒曜石である。地図の「旧売店」付近で拾った。時間をかければ今でも拾えるのだが、林間学校で子どもたちをたくさん連れて、道端や私有地を荒らすのは良くない。旅行会社の担当者さんにも方々当たってもらい、知人の大学の先生にも協力してもらったが、やはり難しいようだ。

最終的に、現地で子どもたちに黒曜石を採集させるのはあきらめて、黒曜石の博物館に行くことにした。